

## ワイン投資～投資のひとつの選択肢～

ファイナンシャル・プランナー 福島えみ子

ワイン。その歴史は古く、初めてのワイン造りは紀元前 8000 年頃のメソポタミアと言われています。紀元前 2500 年にはシュメール人の「ギルガメシュ叙事詩」に登場。エジプトでもピラミッドの壁画に既にぶどう栽培やワイン醸造の絵が描かれています。そして登場以来その魅力は多くの歴史上有名な人物達も虜にし、多くのいさかいや領土争いまでも引き起こすほど人々を魅了してきたもの、それがワインなのです。

有名銘醸地フランスのボルドーに近いイギリスでは、ボルドーが一時期イギリスの領土だったこともあって古くからワイン取引の舞台となり、貴族層を中心にワイン投資も盛んに行われてきました。消費財であるため一般に売却益への課税は緩く、現物資産として投資ポートフォリオに組み入れることで他の資産からのリスクをヘッジしうるため、現在も富裕層を中心として世界中でワイン投資は行われています。

では、なぜワインは魅力的な投資たりうるのでしょうか？

ワインは収穫年が異なると、生産地や生産者が例え同じでも異なる個性のワインとして取引されます。各生産年（ヴィンテージ）のワインはその年にしか 2 度と生産できず（あたりまえですが）、時の経過とともに消費されてゆくためその供給数は減る一方です。ワインもまたほかの投資や取引と同様、需要と供給のバランスで価格は決まるので、需要が一定と仮定すれば経年とともにそのヴィンテージワインの価格は上昇してゆきます。ましてや今までそれほどワインを消費してこなかった中国・香港・インド・ロシアでのワイン消費が目ざましく増加している現在、需要が増える一方であるとすれば値崩れがしにくいという予想が成り立ちます。

また、ワイン投資で重要となるものの一つが、「ヴィンテージ（生産年）」です。ワインの原料となるぶどうの生産量・質はその年の天候・作柄等に大きく左右されます。よく熟したワインほど糖度が高くワインに十分な深みとアルコール分を与え、そしてワインの味わいの重要な要素となる酸味には適度に冷涼な環境が必要です。例えば雨が多く日照量が不十分だった年のぶどうは十分に熟すことができずワインは奥行きを欠いた味わいになりがちなうえ、生産量も落ちてしまいます。反対に、暑すぎるばかりでもぶどうに酸がのらずバランスを欠いた味わいになります。技術の発展につれ、そうした天候・病気・害虫による影響を幾分やわらげる事が可能になりましたが、限界があります。この人間のコントロ

ーコラムの無断転写・転載などを禁じます。ー

Copyright©2011 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.

ールの及ばない部分、これはワインが投機的性格を持つ理由の一つなのです。

しかし、作柄のよくない年のぶどうでも優れたワイン生産者はその卓越した技術と努力と情熱によって素晴らしいワインへと仕上げてきます。同じ地方・同じ天候条件であったとしても、生産者によってそのワインの質は異なってくるのです。こうした生産者による“偉大なワイン（グランヴァン）”こそ、世界中から「需要」が集中し価格は高騰。ワイン投資の対象となるのはまさにこうしたグランヴァンなのです。ボルドーのメドック格付け1級のいわゆる5大シャトーは、ワイン投資の花形です。

#### ボルドー メドック シャトー格付 Crus Classés du Médoc

##### 第1級

Ch. Mouton-Rothschild	シャトー・ムートン・ロートシルト	Pauillac
Ch. Lafite-Rothschild	シャトー・ラフィット・ロートシルト	Pauillac
Ch. Latour	シャトー・ラトゥール	Pauillac
Ch. Margaux	シャトー・マルゴー	Margaux
Ch. Haut-Brion	シャトー・オブリオン	Pessac

シャトー・ムートン・ロートシルトの価格を一例にとってみましょう。グッド・ヴィンテージの 2000 ヴィンテージ。このワインの 2003 年時点のある有名ワイン小売店の価格は 39,800 円。しかし 2011 年の現在、ネットショップの同ワインの最安値価格帯はなんと 13 万円代後半。ほぼ 3 倍です！

この値上がり幅を見ればワイン投資は魅惑の投資に見えるかもしれません。しかし、本当にそれほど“おいしい”投資なのでしょうか？

ひとつ留意しておくべき点は、ヴィンテージによる価格差が激しいという点です。先程のシャトー・ムートン・ロートシルトを再び例に取りましょう。ある有名ワイン小売店の価格表によれば、グッド・ヴィンテージと言われる 2000 年とそれほどでもなかった 1997 年では、たった 3 年しか違わないのに、その売値は 10 万近くの価格差となっています。すなわちヴィンテージの良し悪しの判断を誤れば、大きくリターンに影響してくるのです。

また、ワイン特有のリスクもあります。

まず保存リスクが挙げられます。ワインの保存は想像以上にデリケートなもので、保存中の光・振動・温度・湿度、これらはワインの状態すなわち味わいに大きな影響を与えます。保存は温度 11～15 度・湿度 70～75%を保ち直射日光のあたらない場所が必須で、具体的に言うとワインセラーや温度・湿度管理された室内で保存されなければ多くの場合味わいは損なわれ、ひいては商品価値を損ないます。また、地震の多い日本なら保存中に棄損してしまうリスクも看過できないところです。

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2011 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.

次にフェイク（偽物）を掴んでしまうリスク。どんなワインも飲むまではその味はわからない。ワインが飲料であるが故のリスクです。いえ、飲んででもボトルの中身が近隣地区かつグッドヴィンテージならば、ラベルより格下の畑の（もっと安価な）ワインだったとしても、飲み慣れたテイスターでなければ気づくことは難しいかもしれません。この点、信頼できる取得ルートを吟味することが必要です。

そして価格変動リスクも見逃せません。このようなグランヴァンは生活必需品ではないいわゆる贅沢品であるために、ワイン価格は世界の経済状況の影響を少なからず受けます。例えばリーマンショックのあった2008年、ワイン価格は大きく下落しています。一旦下落すると売り場を失い、含み損を持ったまま在庫を抱え保存コストだけがかかってゆくというリスクがあるわけです。

他の投資とは性格の異なるこれらのリスクを鑑みると、ワイン投資は余裕資金で行うのが理想的ではないでしょうか？加えて、予測しづらい価格変動リスクをヘッジするためにはなるべく長期投資を心がけるべきでしょう。

ちなみに、個人でこうした分散をしたり、保存のコストをかけたり、銘柄選定に時間をかけたりという手間を省くには「ワイン投資ファンド」という手もあります。運営会社が複数の銘柄・複数の時期で分散投資し、利益を分配するものです。ただしこのワイン投資ファンドも、運営会社の倒産リスクというデメリットはあるので、事前に信用力を十分に調査する必要があります。

「ワイン投資」について、ざっと概観してきましたがいかがでしょうか？

一人のワインラヴァーとして本音を言えば、ワインがただ投資というマネーゲームにさらされ生産国の人間さえ手の届かない価格になってゆくのは心が痛む思いです。ワインは生産者の気の遠くなるような労力と情熱の結晶。人生の幸せな時間を彩る存在であって欲しいからです。

しかしながらファイナンシャルプランナーとしては、個々の状況、事情、資産ポートフォリオによっては、取り入れる価値がある場合もあると考えています。その取り入れる価値がある場合とは・・・長期に渡り十分な余裕資金によって、そして趣味も兼ねワインを愛する人により行われる場合です。ワインが思うようなパフォーマンスを生まず含み損を抱えてしまった、そんな時もしもいざとなったらそのワインを飲んで最高に幸せな時間を過ごすのはいかがでしょうか。これができるのは、ほかの投資にはない、まさにワイン投資だけのメリットなのです！

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

Copyright©2011 Skirr Japan Corporation. All Rights Reserved.